

# 日吉台地下壕保存の会会報

第97号

日吉台地下壕保存の会

## 2010年度総会・講演会

2010年5月29日(土)慶應義塾大学日吉キャンパス藤山記念館大会議室において本年度総会及び講演会が約40名の参加者をもって行われました。この講演会と総会の前に、第4回ガイド養成講座に最後まで参加された方で、総会に出席された4名の方に修了証が渡されました。残りの3名の方には後ほどお渡しする予定です。新しい仲間が増えたことはうれしい限りで、これからもみんなで楽しくやっていきたいと思います。

今回の講演会は昨年発見された日吉台まむし谷(軍令部第三部地下壕)の発掘調査の成果報告とその保存活用がテーマでした。発掘調査の成果は吾妻考古学研究所の山田仁和氏が発掘の専門家としての立場から多くの写真や図面を用いて、詳しく分析した結果を報告されました。一つのことからこんなに多くの客観的な事実が推測されるのかと思いました。専門家の調査方法には感心をしました。保存活用に関しては本会の新井揆博氏が遺跡保存と地権者と行政の関係を分かりやすく説明して、保存運動の方向性を示唆されました。

総会では現在慶應義塾で検討している寄宿舍の改築計画や平和ミュージアム、文化庁による戦争遺跡として国指定等の話がありました。その他にもこの1年で2700名の方を案内したことが報告され、年々人数が増えてきていることによる、新たな対応も考えなくてはならないことなどが提起されました。

### 講演会・総会式次第

○講演会 13:00~15:00

・挨拶 大西 章

(日吉台地下壕保存の会会長)

・ガイド養成講座修了証 授与

・講演

「日吉台まむし谷(軍令部第三部等地下壕)の発掘調査と保存・活用の意義」

(1) 発掘調査の成果報告

講師 山田仁和氏

(吾妻考古学研究所主任研究員・日本考古学研究員)

(2) 保存活用の意義

講師 新井揆博氏

(日吉台地下壕保存の会副会長)



講師 山田仁和氏

## ○総会 15:15～15:45

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議事
  - (1) 2009年度活動報告
  - (2) 2009年度会計報告
  - (3) 2009年度会計監査報告
  - (4) (1)(2)(3)の報告についての質疑応答及び承認
  - (5) 2010年度 会長・副会長・運営委員・会計監査の選出と承認
  - (6) 2010年度 活動方針案説明
  - (7) 2010年度 予算案説明
  - (8) (6)(7)の活動方針案、予算案の質疑応答及び承認
5. その他
6. 議長解任
7. その他連絡事項
8. 閉会の辞



会長挨拶 大西章

日 時 2010年5月29日(土) 12:30 開場  
 場 所 慶應義塾大学日吉キャンパス 藤山記念館大会議室  
 主 催 日吉台地下壕保存の会

## 報告資料

## 充実した諮問委員会の答申に学び 日吉台地下壕の保存・活用を考える

日吉台地下壕保存の会副会長 新井揆博

### 1 軍令部第三部等地下壕入坑部の発見に伴う慶應義塾の対応

#### 1) 日吉台地下壕諮問委員会の設置

慶應義塾では、創立150年記念事業の一環として、日吉キャンパス蝮谷体育館新築工事の掘削工事中、2008(平成20)年9月に地下壕の入口部3ヶ所が発見されたところから、急を要する教育環境整備の一つである体育館建設の実現と新たに発見された日吉台地下壕(軍令部第三部・航空本部・東京通信隊)の保存という二つの課題をいかに両立させるかということについて最も適切な判断が求められた。そこで12月17日、学外の研究者を含めた「日吉台地下壕諮問委員会」を設置して、適切な判断を求めて下記の3案を示して委員会に諮問した。



講師 新井揆博

#### 第1案：記録保存案、

- ①体育館建設は当初計画通り実施(部分的な小さな変更はありうる)
- ②2aは解体(4aは今後の調査によるが現状保存の方向)

③以下省略

第2案：2a埋設案

①2aを現状保存し、その上に体育館を建設する、(3aはすでに一部解体)、4aは今後の調査によるが現状保存の方向

②体育館の原設計では、2a部分が体育館基礎及び床版と干渉するため、2aを現状保存するために体育館の基礎設計を変更

③以下省略

第3案

①体育館の建設位置を北側バスケットコート側に移動、2aを現状保存、(3aはすでに一部解体)、4aは今後の調査によるが現状保存の方向

②建物の配置移動に伴い、設計変更、許認可の変更手続きを行う

③2a, 3a側の旧バレーボールコート部分については、バレーボールコートとして復旧(工事スケジュールによっては、工事開始前にバレーコートの復旧を行う可能性あり)する。

④③に伴い必要となる調査の実施

⑤すでに施工中の南東側斜面の掘削部分については、擁壁工事を行なう

⑥工事完了後、地下壕内部の調査を行うための進入ルートの検討

以下省略

## 2) 日吉台地下壕諮問委員会の答申に学ぶ

諮問委員会では、2008(平成20)年12月17日から4回にわたり委員会で審議した。そして慶應義塾から提案のあった3つの対応案のうち「**第3案：北側移動案**」の採用が望ましいと結論づけた。その付帯意見の中でその考え方を示すとともに今後の調査・研究・活用に向けて慶應義塾に期待をこめて述べ、2009(平成21)年1月21日、慶應義塾に答申した。

### ・ 基本的な考え方 <答申から転載・○番号と下線は報告者が挿入>

日吉台地下壕は、第二次世界大戦末期に帝国海軍がその中枢機能に移した施設であり、戦局の悪化に対し大日本帝国が取った軍事的活動を伝える、きわめて重要な物的証拠である。日吉キャンパス内の**①蝮谷一帯は、その入口施設が集中する場所であり、地形を含めた景観全体が歴史資料として意義をもつ。**そればかりでなく、日吉が軍事拠点となることで生活を一変させられた一帯の住民をはじめ、多くの仲間や家族が戦争に動員され犠牲となり、その学び舎にも致命的な打撃を蒙った慶應義塾の関係者にとって、日吉地下壕及び蝮谷の景観は、戦争の具体的な体験の記憶をつなぎとめる、数少ない場となるはずである。つまり、**②日吉台地下壕は、日本近現代史研究のみならず、世代を超えたコミュニケーションの触媒となることで戦争の記憶を後世に伝えることを可能にする、高い学術的・教育的価値を持つ文化財として評価しなければならないのである。**

このたび、蝮谷体育館の建設範囲内より、地下壕の入口部分が発見されたわけであるが、**③こうした文化財がキャンパス内に存在することを、決して研究教育環境の整備・改善に対する障害として捉えてはならない。むしろ、今回の地下壕入口の発見を肯定的に捉え、大学の研究教育環境の改善と文化財保存問題の両立を果たすとともに、貴重な文化財を持つ大学として、その積極的な利活用を含めた慶應義塾らしい研究・教育活動を構築していくためのきっかけにすべきである。**

**高等教育研究機関たる大学であるからこそ、文化財の保存と活用の範となるべき姿勢を示す必要があることは言うまでもない。**それは、明治大学生田キャンパスに残る旧陸軍研究所の建造物が大学博物館として保存・活用され、「平和と人権の尊さを再確認する場、科学教育・歴史教育・平和教育の発信地」となるべく整備が進められている昨今の動向に照らしても明ら

かである。慶應義塾には、戦前のキャンパス建設の際に発見された弥生時代の竪穴住居址を、全国に先駆けて保存活用してきたという歴史があり、昨今では「日吉台地下壕保存の会」と共同して行っている地下壕の公開活動が、戦争遺跡の活用の実践として高い評価を得ている。④こうした文化財の保存と活用に関わるこれまでの取り組みからも、慶應義塾に期待するところは大きい。

地下壕の保存と活用にあたっては、蝮谷の景観を極力保存することが望ましく、その点で最も効果的な第3案を支持するものである。ただし、体育館自体の建設位置、設計の変更等により、谷戸全体を保存することが可能であれば、そのほうが望ましいことは言うまでもない。また、⑤第3案を実施するにしても、野外コートに復旧される南側の二つの入口施設(2a 3a)、及び体育館と至近距離の関係にあたる北側の入口施設(4a)から出入り可能な工夫をすることが、今後の地下壕の研究・教育活動を行っていくうえで必要になる点もつけ加えておく。

・ 今後の調査・研究・活用に向けて

日吉台地下壕を慶應義塾の研究教育資源として有効に活用していくためには、①日吉台地下壕について、これまで以上に調査・研究に力をいれ、成果の蓄積を進めていくことが必要である。それは、近い将来予想される国史跡への指定に対応するためにも急務となる。今回入口施設が発見された蝮谷東側の台地内の地下壕に関しては、これまでほとんど調査が行われていないため、その実態は不明のままであった。今回の発見を機に、問題となった地下壕を含め、日吉台地下壕全体の徹底した調査を実施することが望まれる。

なお、②地下壕の調査・研究を進めるにあたっては、同様に海軍の施設として用いられた寄宿舎や第一校舎を含めた、日吉台全体を軍事遺跡として認識する視点も必要になってくよう。また、地下壕に関わる人々の記憶の調査をはじめ、公的・私的文書等の史料調査等も、あわせておこなっていかなければならない。

仮に第3案が採用され、地下壕及び蝮谷の景観の多くが保存された場合、③今後の活用計画を具体化しておくことも大切である。外部の研究者に調査・研究の道を開くことはもちろんのこと、塾内外の多くの人々が見学・利用できるような、④谷戸内及び地下壕内の整備を進めていくことが必要である。一貫校を含めた授業・講義での活用や、一般の方々を対象とした見学会の実施等、ソフト面の整備も不可欠である。

このように、⑤地下壕に関わる様々な調査・研究を実施し、地下壕を今後の研究教育資源として整備・活用していくためには、慶應義塾内に、恒常的に調査・研究・教育活動を行う組織を設置することが有効と考える。その場合、地下壕のみならず、弥生時代の集落址等のキャンパス内の埋蔵文化財や、慶應義塾が所有する様々な文化財の調査・研究・教育にも対応可能な組織とするのも一案である。

地下壕の調査・研究が進み、その活用の体制が整備されてくれば、近現代史研究のみならず、歴史教育、平和教育に対する慶應義塾独自の取り組みが可能になってくるはずである。そうした研究教育活動の成果が、未来を先導する塾生へと受け継がれていくとともに、日吉台地下壕が、現在そして未来の塾生にとって卒業後も慶應義塾とのつながりを実感しうる場となっていくことを期待するものである。

### 3) 答申を受けた慶應義塾の判断

諮問委員会の答申を受けた慶應義塾は、日吉キャンパス蝮谷体育館(仮称)の建設計画に伴う日吉台地下壕保存への対応方法について議論を経て、1月30日付諮問委員会に報告した。

それによると、答申の審議結果のとおり「北側移動案」(60m移動)を採用することと、付帯意見の各事項については引き続き検討を続けていくこと、特に地下壕入口周辺の進入ルート確保等については、諮問委員会の意見を踏まえ、具体的な案を策定して、様々な面から検討のうえ判断する。また、工事着手前に最低限行う必要のある調査については、早急に実



施できるよう準備するというものであった。日吉台地下壕保存の会では、後日同趣旨のものを慶應義塾担当者から口頭での報告を受けた。

①B地下壕（軍令部第三部等地下壕）2a・3a・4a入り口部周辺の発掘調査は以上のような経緯で行われた。（発掘調査内容は山田仁和氏報告）

## 2 地下壕の保存・活用を考える

### 1) 日吉台地下壕の調査研究に力を注ぎ国史跡としての位置づけを

私たち日吉台地下壕保存の会では、日吉台地下壕について、「特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準」に照らして「我が国近現代の歴史上の理解に欠くことができない遺跡で学術上価値あるもの」ととらえ、国史跡に指定され、国として保護されるべきものと考えている。

戦争体験者が少なくなるなかで、この貴重な戦争遺跡（文化財）である日吉台地下壕を通して、21世紀を戦争のない平和な時代にするため、ここ20年間「平和の語り部」として近現代の歴史に学び、戦争の実相を学生・生徒・市民に語り伝える努力をしてきた。

アジア太平洋戦争末期、日本海軍によって使われた第一校舎・寄宿舎・チャペル・巨大な地下壕の存在は、戦争を伝える貴重な物的資料だ。しかしながら戦時中海軍がここで具体的に何をやっていたのか、建物・地下壕に関わる記録や証言は少なく、まだまだ解明すべきところが多くある。日吉台地下壕を研究教育資源として有効に活用していくためには、慶應義塾大

学民俗考古学研究室をはじめ学内外の研究者による研究成果に学びつつ、これまで以上に保存の会も調査・研究に力を注ぎ、成果の蓄積を重ねていくことが必要である。そのことは、ここへきて近い将来予想される文化庁の国史跡への指定に対応するためにも進めていきたいところである。

文化庁では政府は1995年、広島原爆ドームの世界遺産登録の動きに連動して文化財保護法の史跡指定基準を変更し、第二次世界大戦終結ころまでの戦争遺跡も文化財に指定する道を開いた。この文化財保護法の基準改正を受けて、文化庁は96年度から「近代遺跡総合調査」を始めた。98年度には「政治・軍事」の分野を対象とした所在調査が実施され、これを受けて、横浜市では「日吉台地下壕」（慶應義塾日吉キャンパスに現存する軍令部第三部・航空本部・東京通信隊・連合艦隊司令部地下壕や艦政本部が入る予定であった地下壕など）について、A評価（国史跡に該当）をもって「近代遺跡所在調査票」を文化庁に提出した（資料1参照）。文化庁は2002年、その所在調査をもと

近代遺跡所在調査票（神奈川県横浜市）

分野	政治軍事に関する遺跡	遺跡の名称	日吉台地下壕
遺跡の所在地	横浜市港北区箕輪町一丁目126番地他、日吉本町三丁目1577番地他、箕輪町三丁目423番地他		
所有者	横浜市、慶應義塾大学、民有地		
遺跡の年代	昭和19年7月～昭和20年8月		
遺跡の説明	<p>日吉台地下壕は、慶應義塾大学日吉キャンパス内に所在する連合艦隊司令部、大本営海軍部軍令部第三部、海軍省人事局及び西方の民有地から公園予定地にかけて存在する海軍省艦政本部等の地下壕によって構成されている。地下壕の建設は、昭和19年7月に始められ、完成した部分から使用された。</p> <p>日吉キャンパス内に所在する地下壕のうち最も堅牢である連合艦隊司令部地下壕は、司令部が置かれた寄宿舎と一体化した壕で、厚さ約40cmのコンクリートで覆われ、幅約3～4m、高さ約3mの形状である。長官室、作戦室、通信室、暗号室、バッテリー室、倉庫など中核施設が造られていた。地下壕司令部からは、大戦末期約1年間においてレイテ作戦、沖縄作戦、特攻隊出撃命令などの作戦指令が出され、全海軍を指揮する総司令部を兼ねていた。本地下壕は、平成13年3月に慶應義塾大学によって整備工事が進められ、見学が安全に行われるようになった。</p> <p>海軍省艦政本部地下壕は、北から南に張出す台地の地下、南北300m×東西200mの範囲に10本のトンネル状の穴を南北に掘り、それを東西に網のようにつないでいる。地下壕の長さは2km以上に及び、工事途中からセメントが底をついたため、一部大谷石を資材に転用した箇所や崩壊のままだ状態もある。昭和20年8月14日に完成したが、海軍省艦政本部はこの地下壕に入ることなく終戦を迎えた。</p> <p>本地下壕の北半部は崩れる危険性があり地権者等の意向により安全対策上内部を埋戻し、南半部は内部に入って迷子になる恐れがあることから入口部を閉鎖する工事を平成12年度から平成14年度まで順次実施している。</p>		
保存の状況	連合艦隊司令部地下壕他：構造物（コンクリート壁）は良好に残存 海軍省艦政本部地下壕：北半部は崩壊の恐れあり。		
管理の状況	連合艦隊司令部地下壕他：大半は慶應義塾大学により管理、一部民有地 海軍省艦政本部地下壕：埋戻し、入口部閉鎖については横浜市が対応。		
指定の有無	なし		
遺跡の評価	A		

資料1 近代遺跡所在調査票

に史跡指定に向けての詳細調査を実施する「軍事に関する遺跡」対象地51ヶ所を選定した。その一つに神奈川県横浜市港北区の日吉に第二次世界大戦末期に築造した「日吉台地下壕」が選ばれた。そして文化庁は、2003年10月3日に「日吉台地下壕」の現地調査に入った。こうして「日吉台地下壕」を含む戦争遺跡は、「近代の歴史を理解する上で欠くことのできない重要な遺跡」(文化財保護法)の評価を受ける候補になった。文化庁は2010年度中に詳細調査の概要を『近代遺跡調査報告書』として刊行する予定になっている(2010年2月15日文化庁担当官発言)。今では大いにその評価が期待される場所である。

## 2) 地下壕を通して近現代の歴史を正しく学生・生徒・市民に伝える(活用)

文化財保護法には、文化財の扱いについて次のように記している。

### 第3条(政府及び地方公共団体の任務)

政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもってこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

### 第4条(国民、所有者等の心構)

一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に努力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用を努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当たって関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

## 3) 日常の活動のなかで

### 日吉台地下壕見学会を通して学び伝える

#### 見学コース

ガイダンス(日吉の戦争遺跡の特長)→第一校舎(軍令部第三部が入り情報収集活動)  
→軍令部第三部待避壕→連合艦隊司令部地下壕(地下壕各部所の役割と構造)→チャペル(軍隊は祈りの場も使った)→弥生式住居址(住民は2000年前から生活していた)→  
堅穴式耐弾壕(巨大な地下壕の空気坑)→寄宿舍(学生の生活の場が連合艦隊司令部)  
→まとめ

#### 慶應義塾の日吉地下壕入坑ガイドラインのもとで

2001年慶應義塾は連合艦隊司令部地下壕の整備を行った。閉鎖していたまむし谷側の入口1箇所を開け、戦後50年間溜まった地下壕内部の土砂を取り払い、ランタン型照明を50個設置して入坑時の安全を図った。

そして、地下壕が公開施設でないことを前提にした入坑のガイドラインを作成、日吉台地下壕保存の会などに示した。その内容は、

- 1、報道機関については、報道目的が真摯で、かつ取材主体がこの日吉地下壕にあり、義塾が認めた場合。
- 2、研究教育機関等(小・中・高・大学生を含む)  
研究・教育のため、研究教育機関等が日吉地下壕入坑調査等を必要とし、義塾がみとめた場合。
- 3、学内関係者については、研究・教育上の入坑で、義塾が認めた場合。  
日吉台地下壕保存の会については、定例日をきめ前もって義塾に提出し認められた場合(現在は第4土曜日)。

したがって、研究・教育のために見学する場合は、あらかじめ慶應義塾の許可を得て日吉台地下壕保存の会が地下壕の案内をするようになった。

### ガイド養成講座をもって学習

見学コースを案内するにあたって安全第一に心がけ、歴史事実にもとづいた「平和の語り部」としての想いを正しくわかりやすく語る努力をする。

そのために

- ①日吉の戦争遺跡の内容と特長をよく理解しておくこと。
- ②その特長は歴史的事実に支えられているものであること。
- ③ガイドするにあたって、話す内容をメモに整理し与えられた時間内に話せるようにしよう。
- ④戦争遺跡には地下壕など暗いところもあれば危険な場所もあるので、ガイドする人は、率先して帽子をかぶり、安全な足ごしらえで歩くよう心がけることにしましょう。懐中電灯は必携（明るいものが良い）。さほど荷物にならないので、ガイドブック・メジャー・方位磁石・メモ・カメラなどカバンに入れておくに役立ちます。（本会では、ガイド人にも保険をかけていますが、見学者が怪我をしたときを考え若干の薬品を用意しています）
- ⑤見学者から質問があつて応えられなかった時は、憶測で応えないで後で調べて電話してあげると良いと思います。
- ⑥見学会が終わったら、お茶でも飲みながら気軽に意見交換できるといいですね。自分の案内はこれでよかったのか、相手にどこまで話を理解して聞いてもらえたか勉強になります。

## 4) 戦争遺跡をいかす「日吉平和ミュージアム」構想（骨子）

- 1「日吉平和ミュージアム」は、連合艦隊司令部地下壕（戦争遺跡）ならびに日吉寄宿舍（展示資料館）の全体を候補として考えます。
- 2 展示資料館には、分野別展示コーナーを設置します。
  - ①日吉の自然と歴史のコーナー  
―日吉の考古をはじめ歴史関係資料などを展示―
  - ②アジア太平洋戦争下の塾生生活のコーナー  
―戦時下の塾生生活の関係資料、戦没者資料などを展示―
  - ③日吉寄宿舍と谷口吉郎のコーナー  
―寄宿舍・ローマ風呂を中心とする関係資料を展示し学生生活の象徴・文化財としての価値を学ぶ―
  - ④日吉の海軍と戦争遺跡（連合艦隊司令部地下壕その他）のコーナー  
―軍令部・連合艦隊司令部・人事局・航空本部・艦政本部など―
  - ⑤展示資料館内には、図書コーナー、学習室、収蔵庫を整備します。  
―文献資料を書架に用意して、40人くらいが学習・討論できる場―
- 3 南寮と中寮の間にあった地下壕へ直行する階段を復元し、地下壕見学のオリエンテーションの場にするのとあわせ地下壕内にも説明板を設置します。

## 3 安全・充実した地下壕見学するための環境整備

遺跡の形状を変えることは好ましくないが、現在、地下壕の見学にあたり、安全で充実した学習ができるよう改善したい点を考える。財政的に多大の費用もかかるが検討して善処したい。

- ①連合艦隊司令部が地下壕に入って執務していた戦争末期には、作戦室・電信室には蛍光灯の照明が配備され大変に明るかったそうです。トンネル部分照明は裸電球だったそうだが、

見学にあたって充実した壕内の観察と安全を確保するために、電灯線の配線による照明施設が望ましい。

②当面、見学者が見学にあたって地下壕の要所に直接理解できるよう説明板の設置が望ましい。

## 総会

## 2009年度活動報告

2009年4月12日、軍令部第三部等の地下壕出入口発見に伴う見学会が行なわれたのは、記憶に新しいが、前年度詳しく報告されているので、その後5月21日に壕の内部調査に入ったところからはじめたい。これに関しては、新井揆博副会長が6月19日発行の会報 特集号に詳記されている。当日はゴム長をはき、積もった泥に足をとられながら、安藤広道氏、桜井準也氏、大坪宣雄氏、山田仁和氏の専門家とチームを組み測量のお手伝いをした。1日ばかりでメジャーの端を握るだけで疲労困憊気味なのに、先生方は図面に記録を取り、細かい指示をだされながら、疲れた様子は微塵もなく感動的であった。

10月30日、この壕の出入口とそれにつづく地上のスロープ部分等の状況と今後の保存方法について説明をきいた。出入口発見の端緒となった体育館は北(谷の下手)へ60m移動して建設されることになり、出来た空間は埋め戻してもとのコートにかえて保存されることになった。

5月23日開催された総会では、「日吉はなぜ空襲されたのか」茂呂秀宏運営委員の詳しい報告のあと、「日吉台地下壕保存会のための横浜空襲の位置づけ」と題して今井清一氏の横浜空襲の考察と日吉の空襲について、米軍の意図等興味深いお話があった。

茂呂運営委員は横浜大空襲を記録する会との合同研究会に参加、調査はかなり進んでおり、日吉地区センターの「わがまち再発見・日吉の空襲を聞く」で報告をされている。

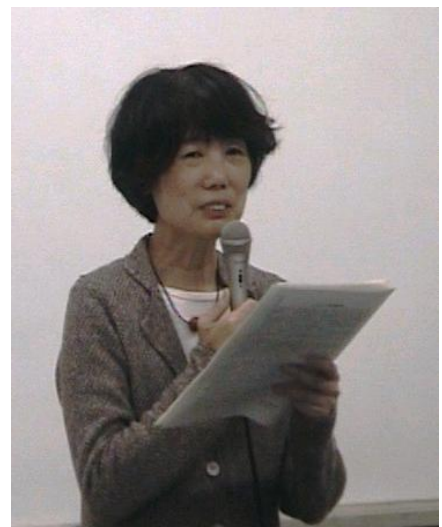
当保存会の「地下壕ガイド学習会」も、8回にわたり会場を提供され、司会、議事録作成等一手に引き受けてくださり、毎回、忌憚のない発言もでて興味深い会合が続いている。

5月29～31日(28日準備)恒例の「平和のための戦争展 in よこはま」に参加。

8月8日～10日 戦争遺跡保存全国シンポジウム第13回 松本大会に参加。テーマは「戦争の事実をどう伝えるか... 戦争遺跡の調査研究活動を通して、保存・文化財指定・活用を考える」であった。第2分科会では山田仁和氏の「慶應日吉キャンパスの軍令部第三部・航空本部等地下壕の発掘について」と茂呂秀宏の「日吉の空襲に関する実態報告書」が発表された。これに先立ち8月7日、当会独自の安曇野プレフィールドワークとして慶応義塾出身の特攻兵上原良司ゆかりの墓地、生家、出身校などを訪ねた。

10月10日、慶大日吉キャンパスで開催の大学と地域の交流企画「ヒヨシフェスタ」に参加。地下壕の写真等を展示した。

当会のメインイベント「平和のための戦争展」は3月10日第1回の実行委員会を開き、11月まで7回の会合をもち、テーマを「戦争遺跡を地域の文化財に」に決定。12月5～6日開催。シンポジウム「戦争遺跡をいかす平和ミュージアム」のパネリストには姫田光義氏、山田朗氏、新井揆博氏を迎えた。若者が発表した「平和とは何か?～ハト(鳩)からハートへ～」は好評であった。



活動報告 喜田美登里



関連行事として「日吉台地下壕見学会」9月26日、「多摩丘陵の戦争遺跡を訪ねるバスツアー」10月25日と「登戸研究所資料館内覧会」11月22・23日が計画された。

「日吉をガイドする講座」の一環として「日吉台とその周辺の遺跡」の講演と遺跡探訪ツアー6月20日、「慶応大学三田キャンパス歴史散策」10月27日が行なわれ好評であった。

「ガイド養成講座」を継続する必要にせまれ、2010年1月16日、2月6日、3月20日を計画した。7名の応募であったが運営委員も一緒に勉強する機会を得た。

2009年5月慶應義塾大学では塾長はじめ常任理事の交代があった。2007年11月に提出した『「日吉平和ミュージアム」づくりの提言』がどうなっているか、再度提出してはどうかとの意見がまとまり、2010年3月12日 大西会長と亀岡運営委員が長谷山理事に会い、改訂版を提出した。

冊子「戦争遺跡を歩く 日吉」改定増刷5000部。校内地図、不明確部分の訂正をした。

最後にガイド養成講座を経て運営委員として活躍されていた高橋保二氏が本年2月2日逝去された。地下壕内で戦艦大和の最後を語られた姿が思い浮かぶ。ご冥福をお祈りする。

#### 日吉台地下壕保存の会

- ◆会員数：個人340名 9団体
- ◆定期総会開催：第21回 2009.5.23。
- ◆運営委員会開催：10回 6.19～2010.4.12。
- ◆会報発行：6回 92号(6.19) 特集号(6.19) 軍令部第三部等地下壕内部調査 93号(9.15) 94号(11.6) 95号(2010.1.26) 96号(4.12)。
- ◆地下壕見学会：63回 5.2～2010.4.24 参加者2758名(小学生～大学生；約1000名)
- ◆横浜大空襲を記録する会との合同研究会 5.9、6.21、9.27。
- ◆(蝸谷)軍令部第三部・航空本部等地下壕内部調査 5.21、10.30。
- ◆「平和のための戦争展 in よこはま」5.29～31(かながわ県民センター)に出展。
- ◆日吉をガイドする講座  
「日吉台とその周辺の遺跡」講演と遺跡探訪ツアー 桜井準也氏 6.20 約60名。  
「慶応大学三田キャンパス歴史散策」都倉武之氏 10.17 25名。
- ◆地下壕ガイド学習会 9回 6.27～2010.3.22。
- ◆日吉地区センター「わがまち再発見」連続講座①「日吉の空襲を聞く」に茂呂秀宏氏。7.6。
- ◆戦争遺跡保存全国シンポジウム第13回 松本大会 8.7～10。
- ◆ヒヨシフェスタ ヒヨシエイジ主催 日吉キャンパス 10.10。
- ◆戦争と人権を考えるバスツアー「多摩丘陵の戦争遺跡を訪ねる」 10.19 32名。
- ◆川崎・横浜平和のための戦争展実行委員会 法政二校 4回 9.1～2010.3.17
- ◆川崎・横浜平和のための戦争展 川崎市平和館 12.5～6 300名
- ◆ガイド養成講座2009 開講 3回 2010.1.16、2.6、3.20 続き4.17
- ◆『「日吉平和ミュージアム」づくりの提言』 慶應義塾塾長 清家篤様 常任理事 長谷山彰様、日吉台地下壕保存の会 慶應義塾高等学校教諭 日吉台地下壕保存の会会長 大西章 2010.3.12 長谷山理事に会見、提出する。
- ◆「明治大学平和教育登戸研究所資料館」会館記念式典 に出席 2010.3.29。
- ◆冊子「戦争遺跡を歩く 日吉」改定増刷5000部 2010.3.31

## 2009年度決算報告

## 2010年度予算

## 2009年度 決算報告

(単位 円)

費 目	2009年度予算	2009年度決算	備 考
【収入の部】			
会 費	250,000	294,800	204名
見学会資料代	400,000	726,230	内訳別項
図書等頒布	0	57,290	
寄付金等収入	0	55,400	
繰 越 金	492,676	492,676	
計	1,142,676	1,626,396	
【支出の部】			
運 営 費	200,000	138,238	各種会合・打合せ等
事 務 費	60,000	110,830	事務用品費等
印 刷 費	80,000	59,490	会報・資料等
通 信 費	200,000	192,420	会報郵送費等
図書資料費	110,000	53,410	書籍・資料等
交流・交通費	150,000	107,680	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	30,000	65,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	0	446,250	5000冊
予 備 費	312,676		
計	1,142,676	1,173,318	
差引残高		453,078	

## 見学会開催費用内訳

収入の部	支出の部	保険料	
見学会費用	1,147,250	振込手数料	2,520
		案内経費	186,000
		※資料作成費	726,230
合計	1,147,250	合計	1,147,250

※資料作成費は2009年度決算の見学会資料代に計上しています

以上の通り報告します

2010年5月17日

日吉台地下壕保存の会  
会 計

亀岡 敦子

この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査

熊谷 紀子

会計監査

山口 園子

## 2010年度 予算

(単位 円)

費 目	2010年度予算	備 考
【収入の部】		
会 費	250,000	
見学会資料代	500,000	
図書等頒布	0	
寄付金等収入	0	
繰 越 金	453,078	
合 計	1,203,078	
【支出の部】		
運 営 費	200,000	各種会合・打合せ等
事 務 費	100,000	事務用品費等
印 刷 費	80,000	会報・資料等
通 信 費	200,000	会報郵送費等
図書資料費	110,000	書籍・資料等
交流・交通費	200,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	80,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	0	
予 備 費	233,078	
合 計	1,203,078	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2010年5月29日

日吉台地下壕保存の会

運営委員会



決算報告 亀岡敦子



監査報告 熊谷紀子

## 2010年度日吉台地下壕保存の会

運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問(案)

会 長 大西 章

副会長 新井 揆博 鈴木 順二

運営委員 石橋 星志 岩崎 昭司 上野美代子 岡上 そう 亀岡 敦子 喜田美登里

桜井 準也 杉山 誠 鈴木 高智 谷藤 基夫 常盤 義和 都倉 武之

富澤 慎吾 中沢 正子 中谷 俊吾 長谷川 崇 古川 晴彦 宮本 順子

茂呂 秀宏 山田 譲 渡辺 清

会計監査 熊谷 紀子 山口 園子

顧 問 永戸 多喜雄 鮫島 重俊 白井 厚 東郷 秀光

2010年度活動方針—(案)—

日吉台地下壕保存の会は発足以来 22 年目になります。この間保存会会員の方々、全国戦争遺跡保存運動に携わっているの方々、日吉地域住民の方々と一緒に活動が続けることが出来ました。

昨年度はまむし谷体育館建設工事に伴い地下壕の入口部分が3か所発見され、簡単な内部調査が行われた後に現状保存のまま埋め戻されました。また、現在老朽化による寄宿舍の改築計画が慶應義塾で進められています。この寄宿舍は建築的に貴重な文化財であるばかりでなく、戦争遺跡としても一級の遺跡です。文化庁も認めているように日吉まむし谷一帯はすべて戦跡遺跡です。まむし谷の4つの入口、3つの寄宿舍、ローマ風呂、地下壕に下りていく階段等が復元されると、当時の状況が目の前にありありと現れてくると思います。まさに『語り部としての地下壕』です。この3月に明治大学が登戸研究所資料館をオープンしました。我々もこの場所に『日吉平和ミュージアム』を建設したいと思っています。

また、この6月に慶應義塾大学において開かれる三田史学会に日吉台地下壕の活動の報告を正式に依頼されました。日本の歴史学会で初めて活動が認められました。このことにより、専門家を含めてより多くの方々が保存運動に携わって下さればと思います。

今年度の活動方針は見学会など日常的な活動の継続と同時に文化庁による戦争遺跡指定の早期実現、慶應義塾への『日吉平和ミュージアム』建設の働きかけなどがあります。困難なことだらけですが、陽気に少しずつでも実現に向けて活動を継続していきたいと考えています。

そのために以下の活動方針を提案致します。

#### 活動方針

- 『日吉平和ミュージアム』の建設に向けて努力する。
- 戦争遺跡指定の早期実現を文化庁に働きかける。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させる。
- 小・中・高校生のための見学会を開催していく。
- 『ガイド養成講座』を充実させ、ガイドの輪を広げていく。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを港北区住民の方を始めとする地域の方々と連帯して行う。
- 全国の戦争遺跡保存運動の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 運営委員会の活動の充実と拡大強化をはかる。



#### 第四回ガイド養成講座（慶応日吉キャンパスめぐり）

日時 2010年4月17日（土）午後1時～4時

コース

来往舎→理工坂（人事局地下壕出入口）  
→保福寺（中田加賀守開基、1944.4.4の空襲で死亡した機関兵葬儀の寺）→中田加賀守碑→テニスコート（小泉信三記念碑「練習は不可能を可能にする」→マムシ谷体育館横（連合艦隊地下壕出入口向かい側：航空本部入り口等遺構）→メタセコイア並木奥峠を越える→新幹線ガードを潜る→連合艦隊地下壕出入口2か所確認（屋敷墓裏・園芸屋さん屋敷内：米軍爆破跡、水洗トイレ跡等）→山道を登り、慶大寄宿舍付近→チャペル→来往舎



人事局地下壕出入口付近で説明を受けている参加者

4月中旬を過ぎても連日の寒さと雨の後ようやく午後から晴れた土曜日、第四回ガイド養成講座（慶応日吉キャンパスめぐり）が11名の参加者を得て行われた。新井本会副会長の案内で廻る。第二校舎前で戦時中日吉に勤務されていた水谷さんから第二校舎内で動物解剖が医学部学生によって行われていた話、蝮谷に実際にたくさんの蝮がいた話などを伺う。記念館横のローイングタンク（潜艇部練習場）見学、資料の写真で戦後のヘルシンキ・オリンピック後の施設とはっきりと確認。

かつては海軍と関係があるなどと言われたこともある戦後の建造物、説明板一つあれば誤解はないものと思う。人事局地下壕入り口確認から保福寺、中田加賀守碑の碑文を見て、慶応出身の特攻学徒上原良司も鍛えたテニスコートから、まむし谷体育館横の航空本部地下壕等の埋め立てられた入り口付近を見る。やはりここにも説明板が欲しい。あれだけの発掘調査が行われたことを後世に伝



地下壕出入口

えるためにも。

「生きている化石」メタセコイアの並木道を通り、峠を越えて航空本部入り口のある大学敷地外のマンション建築予定地に行く。数年来マンションは資金繰りの関係とかで建っていないが、建築予定の看板はあり、法的にはここにいつマンションが建ち、航空本部入り口が取り壊され



戦後米軍に天井を爆破された



でもおかしくない状態にあることが分かる。戦争遺跡がおかれている現実の分かる場所である。

さらに屋敷墓地の外側から司令部地下壕入り口の一つを確認。海軍は民家は強制移動しても屋敷墓地には手をつけなかったと見えて江戸時代の年号が刻まれた墓石が朽ち残っている。植木屋さんの敷地内の入り口から地下壕内の米軍の爆破跡、水洗便所跡を見学。今回は小便器が通路の左右に並んであったこと。大便器は和式であったことまで確認できた。更に御好意で敷地内の別の入り口も見学でき、椎茸のお土産までいただいて、感謝と幸せな気持ちに包まれて参加者一同、帰路に着いた。早春の歴史ウォークの良さを満喫するには最適のコースである。(谷藤記)

## 慶大日吉キャンパスとその周辺戦争遺跡を歩く

ガイド養成講座修了生 井草郁子

<sup>やえむぐら</sup>八重葎の這う急坂を辿ると忽然と現われた街並み。この時点から私の方向感覚は突然麻痺状態。そして驚いたことには酉年地藏巡りで辿ったことのある保福寺の山門に出会うのです。ながい参道を歩いて訪れた記憶が甦り、北側方向を目で辿ると街並みを分けて一条の道が確かにある。やはりあの保福寺なのか。今は幻の行事となった“稲毛領六阿弥陀霊場”の大きな木の札も掲げられている。まむし谷とはこれ如何に！思わず周りをキョロキョロ。その谷戸の奥には”練習は不可能を可能にする”という小泉信三記念碑が見え、近くには連合艦隊地下壕の出入り口が確認できる。弥生時代の住居跡もあるという豊かな丘の麓には球技に興じる学生たちの明るい声と笑顔。

新緑のメタセコイアの並木道を登り、峠に辿りつくところには貝塚。小さな貝が撒っている。”縄文海進“や“古鶴見湾”は古代史として理解できてもここは日吉の丘、海までは10キロメートルはあるだろう。やはり、不思議な感がある。今から240年も前に造られたと言われる”たたりの石“。さわるとたたりのあるという石碑を確認のためということで、さわしまくる。日吉宮前公会堂の坂を下る。数年前“新編武蔵風土記稿”を読み歩く会で訪れた”矢上村“その矢上村こそが今日の散策コースだということがやっと理解できた。雨上がりの新緑の中に出現する連合艦隊地下壕への出入り口と横穴墓。豊かで明るい旧矢上村の人々の暮らしを破壊したであろう連合艦隊の戦跡を保存し、伝承していくことの大切さを体験した一日でした。



修了証をもらう井草郁子さん

## ガイド養成講座修了証授与者(7名)

井草郁子さん・川崎毅さん・長谷川和男さん・山田淑子さん (総会出席者)

藤島政彦さん・福田典子さん・水谷大二郎さん (総会欠席者)

## お知らせ

## ☆ 2010 年度三田史学会

期日 2010 年 6 月 26 日 (土)

13:00~16:30

場所 慶應義塾大学三田キャンパス西校舎

517 番教室 無料・予約不要

## シンポジウム

「キャンパスのなかの戦争遺跡 —研究・教育資源としての日吉台地下壕—」

## 報告 1

「軍令部第三部等地下壕出入口の

発掘調査成果」

慶應義塾大学文学部 安藤 広道

## 報告 2

「日吉台地下壕保存の会の活動」

日吉台地下壕保存の会 新井 揆博

## 報告 3

「戦争遺跡研究の現状と課題」 山梨学院大学法学部 十菱 駿武

コメント1「中国における日中戦争遺跡」 中部大学人文学部 一谷 和郎

コメント2「ベルリンの地下壕 —特に総統地下壕を中心に—」 慶應義塾大学文学部 神田 順司

コメント3「アジア・太平洋戦争と慶應義塾」 慶應義塾福澤研究センター 都倉 武之



三田キャンパス西校舎 6 番(矢印)

## ☆ドキュメンタリー映画『フェンス』(藤原敏史監督) 上映会

日時 2010年7月3日(土)

13時~16時

(上映時間は約3時間)

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス

来往舎シンポジウムスペース

入場無料 事前予約不要

米海軍池子家族住宅を取り囲むフェンスの周辺に生きる人びとへのインタビューを中心とする映画です。



『フェンス』  
米海軍池子家族住宅を取り囲むフェンスそのものを執拗に撮り続けていくことによって、その存在の物質性を強く印象づけると同時に、そこに生きる人々の記憶の諸相を丁寧に記録することによって、フェンスの横断する森の生命力に比するものを人々の語りのなかから紡ぎだしていく、詩的なドキュメンタリー作品。

藤原敏史  
横浜生まれ、東京とパリで育ち、早稲田大学文学部、南カリフォルニア大学映画テレビジョン学部で映画史、映画製作を学ぶ。1994年から映画批評を執筆。共編著に『社会派シネマの戦い方』、『アモス・ギタイ イスラエル/映像ノディアスボラ』(ともにフィルムアート社)。訳書に『市民ケーン』、すべて真実』『バスター・キートン自伝』(ともに筑摩書房)など。2002年、ドキュメンタリー『Independence: around the film Kedma a film by Amos Gitai』で監督デビュー。  
『映画は生きものの記録である 土本典昭の仕事』(2006-2007)、『フェンス』(2008)と、独創的なドキュメンタリー演出を続ける一方で、大胆な即興演出を駆使した初の劇映画『ぼくらはもう帰れない』を2006年ベルリン国際映画祭フォーラム部門で上映、世界的な注目を集める。



## ☆久里浜通信学校歴史館見学のご案内



▲九二式特受信機・改4

海軍で艦船用に広く使われた受信機。右は線輪（コイル）の箱。

旧海軍通信学校があった、陸上自衛隊久里浜駐屯地の歴史館の見学に行きます。現在、見学ツアー実施中で、92式特受信機も展示してあるそうです。いっしょに行きたい方は、新井揆博さんまでファックスまたはメールで申し込み願います。事前に名簿を出しますので、氏名、年齢、性別、職業、住所、電話番号をお伝えください。

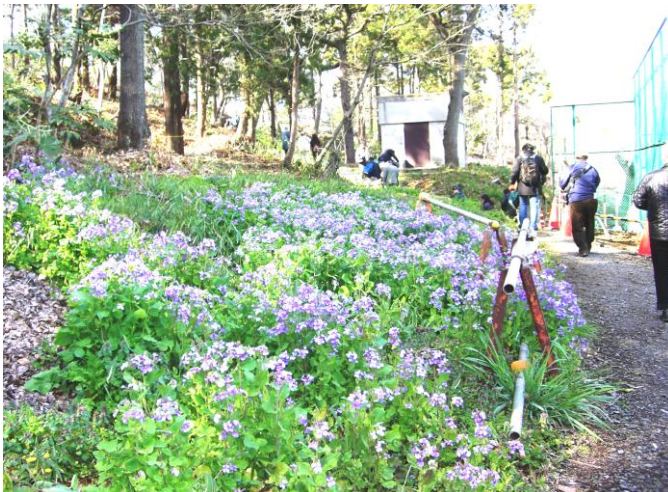
<http://homepage3.nifty.com/ki43/heiki9/kurihama/kurih.html> より

日時：7月23日(金)1時 京浜急行久里浜駅改札口集合、徒歩15分位

申込締め切り：6月30日 新井揆博 Fax：044-766-7859 メール：[arai@m00.itscom.net](mailto:arai@m00.itscom.net)

## ☆地下壕ガイドから一言

喜田美登里（4月記）



ムラサキダイコンの群落 地下壕入口付近

地下壕のいきものと言えばゲジゲジと壁の粘菌、たまに見かけるサワガニなど。年が明けてから久しぶりに排水溝に白いサワガニを見ました。水路を通して外と地下壕を行き来しているようです。地下壕見学用入口の近くは、昨年高校の体育館がまむし谷に完成し、風景も少し変わりました。2001年に壕内の整備で積み上げられた土砂の山に今年はムラサキダイコンとタチツボスミレの群落が。

見学会最後の説明ポイント、寄宿舍前でのカラス軍団の妨害には毎回困っています。

まだ寒かった3月1日田園調布学園の見学会の日に、カラスに追われて銀杏並木を横断するタヌキがいました。下半身の毛がすっかり抜けてみすばらしい姿。2駅先の大倉山のタヌキ達にも疥癬が流行って同じ状態と聞きましたが、暖かくなって回復してるというのですが…。

今、キャンパスも桜吹雪です。きれいに剪定された銀杏並木の芽吹きももうすぐです。



銀杏並木を横断するタヌキ

## ☆活動の記録

- 4/12 運営委員会 会報 96 号発送  
 4/17 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 (フィールドワーク日吉の丘を歩く) 11 名  
 4/24 定例見学会 46 名  
 5/5 地下壕ガイド学習会 (菊名フラット)  
 5/10 運営委員会 (慶応高校物理教室)  
 5/11 地下壕見学会  
 慶応大学安藤ゼミ 26 名  
 5/14 地下壕見学会  
 慶応大学 39 年卒業OB 20 名  
 5/21~5/23 『平和のための戦争展 in  
 よこはま』 見つめよう! 語り合  
 おう! 戦争の過去と今・5 月 29 日横浜  
 大空襲から 65 年  
 (かながわ県民センター) 展示参加  
 5/22 定例見学会 47 名  
 5/24 地下壕見学会 楓三三会 13 名  
 5/27 地下壕見学会 セカンドライフクラブ 23 名  
 5/29 日吉台地下壕保存の会定期総会 (藤山記念館)  
 6/7 地下壕見学会 かわさき生活クラブ生協・慶応高校野球部 OB 保護者有志 42 名  
 6/10 地下壕見学会 横浜市歴史博物館ガイド 15 名  
 6/12 定例見学会 39 名



平和のための戦争展 in よこはま展示

## 予定

- 6/16 運営委員会 会報 97 号発送 (慶応高校物理教室)

## ☆☆定例見学会のご案内☆☆

7、8 月は土曜日以外にも夏休み見学会を実施します。

- ※ 13:00~ 7/24 (土) 7/31 (土) 8/28 (土) 9/25 (土)  
 ※ 9:30~ ・13:30~ (午前午後 2 回) 8/6 (金) 8/10 (火)

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。お問い合わせは見学会窓口まで

TEL 045-562-0443 (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町 2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上  
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921  
 代表 大西章 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会  
 日吉台地下壕保存の会運営委員会